

第1回やつしろ・まち・ひと・しごと対策推進会議におけるご意見等について

| | 委員からの意見・提案等 | 現在の取り組み状況 | 今後の対応方針案等 |
|---|--|---|---|
| 1 | 近年、八代市外から市内への就業者や就職希望者がいる。市外からの就業者に対しては、企業側で宿舍や住宅手当の負担がでてる。一方で八代市内には空屋が多くあるので、これをうまく利用し、市外からの就職希望者を獲得するようなことを検討できないだろうか。(市外からの就業者への住宅手当の補助や空き家の活用) | 移住定住策の一環として平成28年度に空き家バンクを設置し、空き家の募集を開始する予定で準備を進めている。 | 平成28年度に空き家登録物件を募集開始し確保するとともに、空き家バンクの活用を図っていく。また、移住希望者の不安を緩和できるような相談・交流の場づくりを進める。 |
| 2 | ハローワークでも求人情報を提供しているが、求職者とのマッチングがうまくいっていない。官民一体となった意見交換や情報共有、地域住民に対しての求人情報の提供のあり方や一元化によるマッチング支援が必要 | 職業相談事業、地域人材マッチング事業で、人材を掘り起こし、企業と求職者とのマッチングを行っている。 | 今後も継続する予定である。 |
| 3 | 農林水産業について後継者不足に頭を悩ましている。今後、市の支援を受けて克服していきたい。 | 【農業】 平成26年4月に営農支援室を設置。担い手の育成・確保の中でも特に、新規就農者の定着に重点を置き、青年就農給付金等の各種支援事業の相談、申請業務の支援を行うとともに、専属の営農支援員を2名設置し、巡回指導によるその後のフォローアップなどを実施している。 | 農の雇用事業を実施している農業生産法人や準備型の青年就農給付金受給者を受け入れている研修機関と連携し、青年就農給付金(経営開始型)や青年等就農資金の制度活用を中心に、対象者の就農に向けた巡回指導を行っていく。 |
| | | 【農業】 就農して1～3年程度の方を対象に、農業の基礎知識・技術を習得し、今後の農業経営に役立てることを目的とした農業講座を開催している。 | 平成27年度開講内容 20名程度の受講者で、土壌肥料、病害虫、環境保全型農業、就農支援制度、農業機械メンテナンス講座、八代管内や九州管内の先進地視察研修などの講座を行っていく予定。 |
| | | 【林業】 国・県事業として、担い手育成事業を各種実施している。 ・緑の雇用現場技能者育成対策事業 ・くまもと緑の新規就業促進対策事業 | 国・県と連携をとり、担い手育成にかかる各種事業の斡旋や情報提供の実施。 |
| | | 【水産業】 国・県事業として、新規漁業就業者総合支援事業の推進を行っている。 | 国・県と連携をとり、担い手育成にかかる各種事業の斡旋や情報提供の実施。 |
| 4 | 「八代市 まち・ひと・しごとプラン」P14に、既に様々な子育て支援事業があるが、子どもを産み育てる原点の部分に予算をつぎ込んでほしい。「産みたい」と思わせられる働きかけを施策に入れていただきたい。八代市がどういふ子ども達を育てたいのか、という思いを、事業や総合戦略の中に具体的に盛り込んでほしい。 | 【子育て】 子どもたちの疾病の早期治療を促進し、その健康保持と健全な育成を図るため、小学校6年生までを対象とした子ども医療費助成を実施するとともに、子育て世帯の経済的負担を軽減するため、18歳未満の子どもがいる多子世帯の第3子以降の保育料を無料とするなど、子どもを産み、育てたいと思えるような子育てしやすい地域づくりを進めている。 | ○子ども医療費助成の対象年齢拡充については市民ニーズも高いことから、子育て世帯の経済的負担の軽減をさらにすすめるため検討する必要がある。また、小学生が放課後等において安心・安全に過ごすことができる放課後児童クラブの整備を進めるため、平成31年度を目標に、未設置の小学校区の解消及び利用ニーズの高い小学校区への新設や増設に取り組む。 |
| | | 【教育】 八代市教育振興基本計画に基づき、毎年度、八代市教育委員会学校教育及び幼稚園教育推進の基本方向を策定し、これに沿った施策、事務事業を実施している。 ○平成27年度八代市教育委員会学校教育及び幼稚園教育推進の基本方向 目標:「ふるさと・八代」の未来を担う心豊かな人づくりを目指し、幼保、小、中の縦のつながりと学校・家庭・地域の横のつながりの中で、子どもたちの「生きる力」を育む学校教育を推進する。 重点努力事項:1 豊かな心の育成 2 確かな学力の育成(基本的生活習慣の基礎づくり) 3 健やかな体の育成 4 信頼され開かれた学校(幼稚園)づくり (注)上記の1、3、4は学校、幼稚園共通。2の括弧書き部分は幼稚園 | 左記に基づき、総合戦略の中でも取り組んでいく。 |
| 5 | 親の介護のため、都会から八代市へ戻ってくる人も多い。年齢が高い場合、就職が困難になるため、そのバックアップが必要と考える。 | サンライフ八代において、中高年齢者を含めた職業相談を行っている。 | 今後も継続する予定である。 |

| | 委員からの意見・提案等 | 現在の取組み状況 | 今後の対応方針案等 |
|----|--|--|--|
| 6 | 「八代市 まち・ひと・しごとプラン」P14に病後時保育事業があるが、子どもの発熱時など必要な時にすぐに利用しにくい。そのため、子どもが発熱した場合、親が仕事を休む必要が出てくる。このような時の企業に対する人手のバックアップ体制(支援)も考えた方がよいのではないかと。例えば、シルバー人材センターから人材を派遣し、その分を補助事業として支援するなど。 | 会員同士で育児について助け合うファミリーサポートセンターにおいて、これまでの健康な子どもに対する援助活動に加え、病児・病後児の預かり等の相互援助に必要な知識の習得と援助項目内容の向上のための講習会を実施している。 | 現在は健康な子どもに対する援助活動が中心であるが、今後は、こどもの病気にともなうケアや急な預かりの援助が必要になった際への要望に応えられるよう見直しを検討する。 |
| 7 | 国では女性の活躍を促進しているが、地方でどこまで取組めるのか心配である。ライフ・サポート事業を実施しており、年に1度女性の労働相談を行っている。パワハラ、セクハラ、マタハラ、様々な相談を受ける。第1子が出来たら退職を促される実態もある。このような実態を変えていかないと、子どもを産み育てていく環境は整っていかないと感じる。民間企業等への働きかけをはじめとする対策等が必要。 | 【男女共同参画】 ①本市では「八代市男女共同参画計画」を策定して、行政の施策の取組のほか、市民や職場の取組を定め、セクハラ・マタハラ・パワハラ等の防止に取り組んでいる。 ②具体的には、出前講座等による啓発や、講師派遣制度・県表彰制度の案内を行うとともに、市内事業所に対して、ハラスメントの防止及びワークライフバランスについての啓発チラシの配布(約200件)、や相談事業を実施している。 ③女性の活躍促進に関しては、女性のエンパワーメントを図るためにステップアップセミナーを開催している。また、受講者のうち希望者を女性人材リストへ登録して、市の審議会等における委員への登用を推進している。 | ・ステップアップセミナー開催:10月(3回) ・女性人材リスト登録者のためのフォローアップセミナー:11月(1回) ・出前講座・講師派遣:通年 ・事業所への啓発チラシ配布:5月 ・相談事業:通年 等を継続実施していく。 |
| | | 【企業向け】 国・県等からの通知やパンフレット等を市内企業へ周知している。 ※過去に企業の要望に応じてメンタルヘルスセミナーを実施した。 | メンタルヘルスセミナー実施の実績があるので、パワハラ、セクハラ、マタハラ等に関するセミナーについても実施を検討したい。 |
| 8 | 総合戦略は、都市で暮らす人を地方で受け入れるための支援、地元に住んでいる人がビジネスとして展開するための支援があって、産業、雇用、生活の安定が一体化して進んでいくと考えている。起業化支援が少ないと感じるため、起業家支援の仕組みを施策に加えていただきたい。 | 創業支援事業計画を策定し、今年5月に経済産業省の認定を受けたところである。現在、市(商工政策課内)に窓口を設置し、創業者への支援を行っている。 | 今後も継続する予定である。 |
| 9 | 中九州短期大学では、留学生を多数受け入れている。八代市で行っている外国人支援事業(先行型交付金事業)の具体的な内容はどのようなものか。八代市は北海市と姉妹都市を結んでおり、そこを含め広く留学生を受け入れる支援事業を考えていただきたい。 | 外国人支援事業として、 ①今年度から行政手続き・相談時の通訳者(中国語・英語・タガログ語)を本庁に配置している。 ②日本語支援ボランティア養成講座を5回開催する予定。 ③今年度内に市内在住外国人へのアンケートを行い、生活するうえでの困りごとや支援をうけたい事などを把握する予定。 | 移住・定住の観点から、アンケート結果を踏まえ、日本語学習、生活、医療、子育て等、関連する課かが連携し、在住外国人等への具体的な生活支援策を講じていきたい。 |
| 10 | 上記に加え、留学生の地元雇用の支援についても伺いたい。 | 既に市内企業に雇用実績はあるが、具体的な支援までは行っていない状況である。 | 今後、そのような相談があれば、企業紹介等を行ってきたい。 |
| 11 | 八代市の特性は、海、港、球磨川である。国土交通省の球磨川下流域環境デザイン検討委員会では、アユの泳ぐ清流を取り戻す運動を行っている。日本初のダム解体事業である荒瀬ダムに象徴されるように、観光資源としての清流球磨川を総合戦略に加えていただきたい。 | 地域資源の一つとして、観光ルート設定について検討しているところである。また、H27年3月31日に八代市の「かわまちづくり計画」が登録され、新萩原橋周辺の親水護岸整備や川遊び体験、「八の字堰」復元による魚の生息環境向上、河口域の干潟・ヨシ原再生などを国と連携して取り組んでいる。 | 荒瀬ダム撤去地域対策協議会に地域づくり部会を新設し、球磨川中流域(坂本地区)の振興について検討を行う予定であり、有効な観光資源として活用していきたい。また、「かわまちづくり計画」に基づく水辺空間の整備活用を国と連携して推進していく。 |
| 12 | 八代市には総合病院、市立病院に産科がない。また、県南にはNICU(新生児特定集中治療室)を有する病院がなく、熊本市内の病院へ搬送されている。産み・育てるための魅力的な環境を整えてほしい。今年3月に、産婦人科、小児科が各々1医院閉院した。医師会と連携して検討してほしい。 | 小児救急医療については小児科医と熊本労災病院とで緊密な連携を図っておられる。また、夜間救急センターにおいて、小児科医及び協力内科医による小児診療を実施している。ただ、産科・小児科などの診療科やNICUの病床の配置などについては、県が策定する「保健医療計画」において、医療関係者や学識経験者・市町村および県民の声を反映させその施策が盛り込まれている。 | 今後も八代地域保健医療推進協議会や八代地域医療構想検討専門部会の中で、次期熊本県保健医療計画に反映していただけるよう求めていくとともに、こどもを安心して産み育てることができるよう、医師会等の関係機関と連携しながら環境整備に努めていく。 |